

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営主体が調剤薬局であるという特性を活かし、地域密着型としての独自の理念をつくりあげた。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿った介護が行えるよう、全職員に対し、毎日のミーティングや月1回のカンファレンスの中で理念を話し合い共有している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム出入口の一番目に付きやすいところに掲示し、家族や訪問者に明示している。		関連施設では年2回広報誌を発行している。当ホームでも準備が整い次第広報誌を発行し、その広報誌に理念を掲載することで理解を図りたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出の際、顔をあわせれば気軽に挨拶を交わしており、ご近所の方から野菜などの差し入れを頂くこともある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや運動会など、地域の行事には積極的に参加し、施設のイベントにも、地域の老人会や小学生を招いたりしている。特に、小学生とは定期的(月2回)に交流会を開くなどして、地域の人々との活発な交流に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で、地域の方の相談を受ける場を設けている。		開設したばかりの事業所であり職員の力を外に向けるのまだ難しい状況である。当面は民生委員や福祉推進委員との関係を密にすることで、地域貢献の場を探っていききたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価である。自己評価は全職員で取り組むことにより日々の業務を振り返ることが出来た。		外部評価の結果を受け止め、改善に向けて意見交換を行い、実践につなげる努力をしていきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、利用者の状態やヒヤリハット、行事への取り組み等を報告したうえで、意見を出していただき、サービス向上に努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、密に連絡を取り、お互いに情報交換を行っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修には積極的に参加している。必要な方には、家族の意向を確認したうえで適宜説明を行っている。資料等も準備している。		勉強会を開く機会を設け、全職員が権利擁護に関する知識を深める努力をしていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースなどで自宅や施設において虐待が起こっていることは知っているが、高齢者虐待防止法等についての勉強会等は行っていない。		勉強会などを実施し、高齢者虐待防止法等についての理解を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族の要望などを踏まえ、納得されるまで十分に説明を行っている。現在契約に関する苦情等はない。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の小さな意見や不満の声にも耳を傾け、全職員で共有し、話し合いの場を設けている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話などで必ず日常のご様子を報告している。特に健康状態の変化については、その都度連絡を行っている。また、毎月『陽だまり通信』を発行し、近況報告も行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>気軽に意見を言っただけのような雰囲気作りに努めている。また、玄関にも公的な苦情相談窓口のポスターを掲示し、説明も行っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、常に職員との意見交換を行い、現場の状況把握に努めている。また、管理者は管理者会議などを通じて、運営者に職員の意見や提案を運営者に報告している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、働きやすい環境を整えることで職員の離職防止に努め、利用者との馴染みの関係が築きやすいような配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の雇用に関し、年齢・性別に左右されることはない。職員の自由な発想を大事にし、実現に向けた取り組みを行っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人材担当者が人権啓発セミナー等に参加し、管理者に教育するという流れをとっている。</p>		<p>今後は全職員に対して勉強会を実施する予定である。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会に入会し、多くの研修に参加する機会を設けている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会に入会している為、同業者との交流の機会が多い。管理者同時の情報交換も積極的に行っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月1回の管理者会議により管理者の意見を積極的に取り入れ、スタッフの働きやすさにつなげている。有給休暇や看護休暇なども取りやすく、ストレス軽減の為の環境作りに努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者に業務日報の提出を義務付け、職員の努力や取り組みを把握し評価している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前の訪問面談により、本人自身と十分に話しをし、生活環境等の情報収集を行い、本人に対する理解を深める努力をしている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の話しをじっくりと聞くことで、ご家族の求めていることを理解する努力をしている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族のニーズを見極め、最も適したサービスを提供するよう努めている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族には必ず事前に事業所を見学していただき、他の利用者とコミュニケーションをとる機会を作るようにしている。本人や家族の要望があれば、おやつや食事を一緒に摂ることもある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>お互いに人として尊重し支え合いながら生活し、調理や手芸等の際、利用者にも教えてもらう場面作りに努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	こまめに情報交換を行い、家族と同じ思いで本人を支えていく関係づくりに努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族それぞれの思いをしっかりと受け止め、よりよい関係作りを支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂きながら、友人・知人との電話や手紙のやり取り・面会の支援を行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全職員が利用者同士の関係性や起こりうるトラブルを十分に把握し、円滑な関わり合いを持てるよう支援している。また、食事やおやつ等の際は職員も同じテーブルにつき、楽しい時間を過ごせるよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在そのような事例はない。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、コミュニケーションを取りつつ本人の思いや希望の把握に努め、家族からも情報を得るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問面談で利用されているサービス事業者などから聞き取りを行うとともに、家族へ生活歴を把握することの重要性をお話しし、納得のうえで提出していただいている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が本人の全体像を把握するよう努め、生活のリズムや有する能力を理解する努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃より本人や家族から聞き取りを行い、個々のニーズに応じた介護計画を作成している。ケアカンファレンスはスタッフのみで行っているのが現状である。		今後はケアカンファレンスに本人や家族にも出席してもらえるよう働きかけていきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間内であっても状態の変化に応じて見直しを行い、現状に即した計画を立てている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に細かな状態の記録を行い、本人の日頃の様子を全職員が共有したうえで、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況・要望に応じて、外出支援や受診介助などの柔軟な対応を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年3回の消防訓練や定期的な救急・救命講習の受講において、消防の指導やアドバイスを受けるなど連携を図っている。また、運営推進会議の中で、地域の民生委員やボランティアとの協働について、検討している。		運営推進会議などを通じて、地域の民生委員やボランティアとの協働を具体的なものにしていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスの利用についての支援は行っていない。		今後、必要に応じて他のサービス事業所などとの連携について検討していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターとの協働は行っていない。		今後、必要に応じて地域包括支援センターとの協力体制について検討していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医があり、月に2回の定期訪問診療を行っている。入居前のかかりつけ医を希望される方は、希望に沿うよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医のアドバイスをもとに、必要に応じて心療内科等の医療機関の診察を受けられるよう支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	関連施設の看護職と連携を取りながら、利用者の健康管理に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>開設したばかりの施設であり、まだ入院者は出ていない。かかりつけ医が後方支援病院として、入院設備のある病院と連携している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居当初より、重度化に伴い事業所が対応しうる最大のケアについて説明を行っている。また、重度化や終末期に向けた対応指針を定めている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>常日頃より重度化に伴い、かかりつけ医と連携を取りながら事業所が対応しうる最大のケアについて検討している。</p>		<p>終末期のケアについての研修や勉強会に積極的に参加しており、今後も続けていきたい。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>現在、そのような事例はない。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人のプライドを傷つけないよう、さりげない言葉掛けや対応に努めてはいる。</p>		<p>まだ、徹底しているとは言えない段階である為、日々のミーティングの中で、全職員がケアを振り返りながら徹底していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の理解力に応じて声掛けを工夫している。毎日の入浴準備において、洋服を自分で選んでいただいたり、毎月の外食会では、メニューを決めていただくなど自己決定の場面を作っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの中で、買物や散歩など一人一人の状態や希望に応じて、個別に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさを表現できるよう支援している。外食会や外出などの行事の際には、普段とは違うおしゃれな装いをしていただき、賞賛の声掛けを忘れないようにしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けについては、利用者の好みや能力に応じて役割分担をし、職員と一緒にいる。食事も職員と一緒に摂り、楽しい雰囲気作りも大切にしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を理解し、間食の時間とは別に、その日の本人の状態や時間帯に応じて個別の対応も行っている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。おむつから下着への移行に向け、積極的な取り組みを行っている。		時々、他の利用者 앞에서排泄の声掛けをしてしまう事がある為、改善に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は毎日行っている。入浴の長さや回数については、利用者の希望に沿った対応に努めているが、勤務ローテーションの関係で日中に入浴していただいている。</p>	<p>入浴の時間帯についても、利用者の希望に沿った対応が出来るよう検討していきたい。</p>
60	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中は、散歩や体操を取り入れるなどして活動的に過ごしていただき、生活のリズムを整えている。夜間、なかなか寝付けない方については、飲み物を提供したり、お話をじっくり聴くなどして安眠を支援する。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の生活歴や力を全職員が把握し、一人一人に応じた役割・気晴らしをしていただいている。</p>	
62	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の意向もあり、事業所で管理している。手元にお金がないと不安という方もおられる為、家族の了解のもと小額のお金を自己管理されてるケースもある。</p>	<p>買物に行っても、職員が支払うことが多い為、本人に支払っていただく機会を増やしていきたい。</p>
63	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常の散歩や買い物、また外食会・外出などの毎月の行事などにより、戸外に出る機会を多く持つよう努めている。</p>	
64	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>入居者の趣味や希望に応じて、家族の協力をいただきながら、芝居見物や自宅訪問を実施している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務室の電話を利用される場合は、子機を居室にお持ちしゆっくりとお話していただいたり、お手紙をもらった場合は、お返事を書く為の支援をしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	全職員は、訪問者を常に笑顔でお迎えして、気軽に訪問していただける雰囲気づくりに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束やその弊害について、全職員が正しく理解しており、身体拘束は行っていない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者の所在確認をこまめに行い、玄関にはセンサーを取り付けるなどして利用者の行動把握に努めている。また、利用者が外に出ようとしている時は制止せず、一緒に出掛けるなどの対応をしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、昼間利用者が集われるリビングで、記録などの業務を行ないながら所在確認を行い、夜間も時間毎に利用者の様子確認を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活の場である事を重視し、全てを取り除くことはせず、利用者の状況に応じ柔軟に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>利用者の状態を全職員が把握し、事故を未然に防ぐ努力をしている。ヒヤリハット報告書や事故報告書を作成し、事故等の再発防止に努めている。</p>		
72	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>全職員が、救急救命講習を受講している。</p>		<p>今後も、年1回の受講を予定している。</p>
73	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防災マニュアルを作成し、避難経路・避難場所を確保している。年3回防災訓練も実施している。</p>		
74	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>入居前に、利用者の自由を大切にするなど事業所の方針を理解していただき、それに伴うリスクと対応策についても家族に説明している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日のバイタルチェックで利用者の平常時の状態を把握し、異常の早期発見に努め、情報を共有している。</p>		
76	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>体温表・個人記録に現在服用中の薬を明記し、全職員がお薬の目的・副作用等の把握に努めている。また、状態の変化に伴う処方内容の変更についても、その都度確認している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れる、水分補給をこまめに促す、散歩や体操を日課に取り入れ身体を動かす機会を増やすなど、自然排便に向けた工夫をしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者の状態に応じて声掛け・介助により口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		歯科衛生士等による定期的な訪問指導や口腔内チェックについて検討しているところである。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日チェック表に記録し、全職員が情報を共有している。食事やオヤツの時以外にも、起床時、午睡の後、入浴後など水分補給の機会をつくり、十分な水分摂取量の確保に努めている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症への対応マニュアルを作成している。インフルエンザの予防接種についても、利用者・職員とも毎年行っている。また、日常的に手洗いやうがいを徹底し、面会者にも、玄関に消毒薬を設置し手指の消毒をお願いしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん・まな板は毎食後消毒している。また、常に冷蔵庫内の確認・清掃を行い、新鮮な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎日掃除を行うことで、清潔感を保つよう心掛けている。また、玄関周りに四季折々の花を植え、温かく親しみやすい雰囲気づくりに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日中多くの時間を過ごすリビングは特に日当たりが良く、リビングや廊下の壁には、利用者の手芸作品や行事の写真などを飾り、明るく居心地の良い空間作りに努めている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	間取り等の関係で、独立したスペースの確保は難しいが、家具の配置などを工夫し、気の合った利用者同士で会話を楽しんだり、寛いだりできるよう配慮している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、ご家族の写真などを持ってきていただき、利用者にとって居心地の良い空間となっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめにやっている	こまめに居室を訪問し、利用者の状況に応じて温度調節や換気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・階段・トイレ・浴室など要所に手すりを設置している。また、床には緩衝材を使用し、利用者が万が一転倒した際もダメージを最小限に抑える工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人一人の状況や状態に応じた支援をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りや建物周りに花や木を植え、水を撒いたりするなどの活動が出来るよう努めている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者本位のケアの実践に取り組むことはもちろん、認知症になっても外出することの喜び・楽しみを味わっていただく為、毎月外食会や外出会・温泉など外出の機会を多く設けている。